

【平成22年度スーパーバイザー事業実績報告書】

研究主題 『豊かな心をもち、未来をたくましく拓く子どもの育成』

<道徳教育研究主題>

「規範意識や公德心を高め、仲間とともによりよく生きようとする北条っ子の育成」

北栄町立北条小学校

文部科学省の「道徳教育実践事業」の2年間が終わろうとしている。研究に当たっては、国立教育政策研究所総括研究官である西野真由美先生に指導・助言を求め、実際の授業を通して、全職員で研究を進めてきた。

本校児童の傾向として、一般的に素直で明るくのびのびと学校生活を送っている。その反面、様々な理由から基本的な生活習慣が定着していなかったり、場や相手に応じた言葉づかいが適切にできていない、ルールやマナーを守ること、きまりに従う等の規範意識が低かったりするなどの実態がある。また、ルールに則り人間関係がうまくつくれず、平気で相手の心を傷つけてしまうような言葉を投げつけたり、自分から進んで人のために役立とうと行動する児童がまだまだ少なかったりする課題がある。具体的には、素直にあいさつができない、返事ができない、時間が守れない、真剣にそうじができない、学習時間のルールが守れない、といった姿が散見された。このような実態から見ると、自らを律しつつ他を思いやったり他の人との人間関係を調整したりする力を子どもたちに育てていかなければならないと考えた。そのためには、学級をはじめ学校生活全体の中で児童の道徳性の育成を図ることが肝要であり、加えて共に子どもを育てていくという考えのもとに、学校と家庭、地域が協働しあいながら道徳実践力をさらに高め、他の人とともによりよく生きようとする北条っ子を育てたいと願い研究を進めてきた。

研究の概要

児童の道徳性の育成を図るため、以下の三点に研究の重点を置いた。

- ① 道徳的価値の自覚を深める「道徳の時間」のあり方
 - ・「考える」授業を作るための中心発問の吟味
 - ・表現活動を効果的に進める工夫
 - ・話し合い活動の活用
 - ・ＴＴ等による複数体制での授業の工夫
- ② 体験活動等を生かすなどの多様な指導方法を取り入れた展開
 - ・学校行事や各教科・領域等との関連を明確にした指導計画
 - ・重点指導項目に焦点化した体験活動や教育活動の工夫
- ③ 保護者・地域の方及び地域との連携に関する道徳の時間のあり方
 - ・児童の実態と保護者の意識、願いの把握
 - ・地域の人材を招いての授業
 - ・地域に伝わる「人・物・こと・自然」に係る魅力的な教材や資料の開発と活用
 - ・参観日での道徳の授業公開（年間1回以上）
 - ・学級・学年通信等による保護者の意識啓発
 - ・教室掲示の工夫

《①について》

- 道徳教育の全体計画及び年間指導計画を再検討し、全体計画に沿った取り組みを進めるとともに、毎週1時間の授業を確実に実践。
- 理論研究会と授業研究会を実施し、道徳の時間における視点に沿って組織的に取り組む。よりよい授業展開をめざして、
 - ・ 資料分析
 - ・ 資料提示の工夫
 - ・ 発問のあり方
 - ・ 児童の道徳性を見取り
 - ・ 各活動などを通して自己を見つめる力の育成を中心に研究授業を積み重ねた。

<実践事例>

【2の1、6の1の実践（西野先生の指導）より】

- 主人公の気持ちを一貫して追求することが、人物取得となり、葛藤する場面を構成することができ、ねらう価値に迫ることができる。
- 教師の発問を再度分析し、どんな発問が子どもたちの思いを引き出す問いかけになっていたかを研究すること。（児童の反応をいかに肯定的に受け止めるのかも含めて）道徳の時間においては、中心発問はまちがえない。ひとつの大事な発問から世界が広がる。
- 子どもたちの意欲的な発言を引き出すには、子どもたちの出した答えに最後まで付き合っていく姿勢を持つことが大切。常に正解を求めてしまう教師の態度が、子どもたちの警戒心を作ってしまったたり、プライドを傷つけてしまったたりすることになる。子どもの答えに学ぶこと。
- 指導案通りにいかないこともある。大人の思っている常識で、子どもの思いを切らないこと。教師の反応力を磨くことで、「心」を「形」にすることが可能となる。
- ペア活動やグループ活動は、発言しないから行うのではなく、はじめから学習の計画に位置づけておくこと。楽しいことが言い合える時間にしていきたい。
- うまくいかない場合も、時間が延びてはだめ。「今日もいっぱい子どもと話せてよかった。」と言える体験を積み重ねること。そのことがさらに深い価値へとつながってくる。
- 子どものリーダーは、意図的に、意識的に育てていくこと。児童一人一人の特性を見ながら、期待を持ち、その子の持つ資質を引き出してやること。
- 家庭や地域とつながり、体験的な活動が生きる授業を展開することで、社会から認められているという実感や自らの役立ち感を味わわせる。

【1の1の実践「二わのことり」より】

- 資料提示の工夫
- 後段における支援
- 終末の教師の説話
- 役割演技について
- ねらいとする価値について
- 自分の考えを安心して発表できる環境づくり

役割演技による道徳の時間の学習



【5の3の実践「夢に向かって」より】

- 自作資料を活用した取り組み
- TTの取り組み
- 話し合い活動の工夫
(ペア対話・グループ討論)
- 板書の工夫



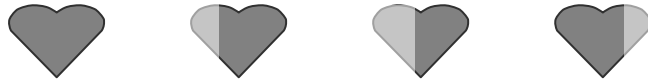
ペア対話による
話し合い活動

【2の2の実践より】

視覚支援（ハートマーク）



登場人物の心情を想像しながら、
自分ならどの程度かを視覚的にと
らえるアイテムとして活用した。



《②について》

- 学校行事等と道徳的価値との関連（主な学校行事等と道徳教育とのかかわり）
- 学校生活の活性化や主体的な活動を促進する取り組み
(朝活動・児童朝会・マラソン大会等)

《③について》

- 道徳イラスト版の活用
- 授業公開・保護者啓発
- 地域素材として「北条ワイン」

ゲストティー
チャーによる
道徳の時間の
学習



成果と課題

- 毎週1時間の道徳の授業を確実に実施することで教師としての力量が向上することと、児童を見取る目が磨かれることで授業力向上が図られ、他の教科の授業の質も高まった。また、児童は自分自身の生活と向き合うことでよりよく生きようとする意欲をもった。さらに、生活のルールを守ることの心地よさ、友達と一緒に活動することの達成感や満足感を感じている児童が増えてきた。(道徳アンケートの結果より)
- 参観日には必ず道徳の時間を位置づけ、保護者に道徳の時間の持つねらいとその学習の意義を継続して伝えたことにより、保護者の児童をとらえる見方や感じ方にも少しずつ変化があったように感じている。

- 保護者・地域の方からの手紙（学校だより・一斉公開参観日の感想より）
 - ☆ 今月3日（日）の夕方、雨がひどく降り出した時、私は道路を歩いていました。後ろから自転車に乗った小学生3人（暗くて分からないが、中学生がいたかも）が、私が転んで手をついていると、心配して『大丈夫ですか？』と声をかけてくれました。通り過ぎても振り返って『気をつけて』と言うので、私も返事をしました。こんな嬉しいことはありませんでした。あいさつ運動が徹底されている証拠かも。
 - ☆ 我が子は今まで学校に行きたくないと言ったことはありません。参観した時間は短かったです。が学級の雰囲気はとても良くて、子どもたちはみんな元気で、我が子が学校に行きたくないと言わない理由が分かった気がしました。
- 大人が変われば子どもが変わる。自分が変われば周りが変わる。教師が育てば子どもが育つ。教師の授業力の向上は、顕著である。特に、若手の先生が自信を付けてきている。ベテランの先生方も刺激を受け、全職員の意識が同じ方向を向いてきている。
- 自分の考えや気持ちを表現する力をさらに定着させていくためにも、言語活動の一層の充実を図ることに力点を置いて研究を進めたい。